vol.202

市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井博文

「別れ」と「出会い」

今年も，30 数人の職員が定年などで市役所を去っていきます。40 年間，市役所に勤務した職員も数名含まれています。合併前の市，町を含め，今の本市の基礎を築いてくれた人たちで，積年のご苦労に，市民を代表し，心から感謝とねぎらいの言葉をかけたいと思います。ありがとうございました。

代わって，新人職員として，市長部局に 14 名，病院局と水道局にそれぞれ 2 名（企業職員），教育委員会に 1 名を採用します。市長部局の 14 名は，一般事務職のほか，保健師・保育士・栄養士・土木技師など技術職のみなさん方です。近年は就職難が続くせいか，えりすぐられた感じの新人が多く，今年も辞令交付の日（4 月 1 日）が楽しみです。

毎年のことですが，春は別れと出会いの交錯する季節ですね。

用語に注意します

本市では，教育委員のほか，任命資格が法定されていない行政委員については，広く市民からの公募による採用を原則としています。意欲ある市民に門戸を開けておきたいという私の思いからです。教育委員の定数は 5 名ですが，全員公募制にしているのは，県下では本市だけだそうです。任期が満了すれば当然に退任し，その委員が再び応募し採用されれば「再任」になります。広報の記事に，かって「留任」とした誤記があったようですが，公募制の趣旨からは，「留任」では不正確になります。この度，市民から厳しい指摘を受けました。今後は十分注意しますので，どうぞご容赦ください。

もっと節約を！

最近出た「これでいいのか山口県」（㈱マイクロマガジン社，118 ページ）によると，「山陽小野田の成功はセメントと博打のドッキング！？」の見出しのもと，合併直後の財政破綻状態だった本市を救ったのは，合併の翌年，財政再建のため，県内で初めて職員や市長，議員の給与カットに踏み切り，人件費を 7 年間で 20 億円削減することに成功し，40 億円程度の積み立てができるまでに回復したことが第一であるが，山陽オートを民間に委託し，山陽市民病院と小野田市民病院を統合したことも大きいと述べています。「だが，本当の意味での勝負はこれから。今後は自前の金（財政）で，街を発展させなければいけない。」「この山陽小野田には“厚狭の寝太郎”という伝説がある。寝てばかりいた男が最終的に村を豊かにするという話だが，山陽小野田はそのストーリーを体現しつつあるようにみえる。」とも記述されています。ちなみに，裏表紙の見出しの一つにも「超ビンボーな山陽小野田だが，ジリ貧の財政を節約で解消！？」とあります。

私が財政規律にこだわるのも，来るべき時期に，確かな財政力を持って，このまちを次の段階へとさらに発展させたいからです。みなさん，どうか事業費の節約にご協力ください。